

# ハザン省日越友好植林事業

～日越外交関係樹立 50 周年の年に開始～

JVPF 会報別冊 2 号  
2024 年 1 月 1 日  
日中友好会館助成事業(第三国)



写真上：技術者派遣による生育状況調査模様  
(2023/11/30)

写真下：2023 年 1 月のボランティアによって植栽され  
たスターアニスの生育状況 (2023/9/20)



ベトナム北部ハザン市のフオンドー社で、ベトナム国の「2021 年～2025 年を期間とする、10 億本植林プロジェクト」と日越外交関係樹立 50 年を記念し、ハザン省日越友好植林事業を開始しました。この事業は日中友好会館・国際連帯事業(第三国)助成を受けたもので、2022 年度(2022 年 12 月開始)を第一期として第三期まで計画されています。

第一期 1 年目の事業の進捗と 2023 年 7 月に実施された技術者による調査について報告します。

また第一期 2 年目事業、第二期新事業についても交付決定を受けました。植林のボランティア派遣に取り組んでいきます。



NPO 法人日本ベトナム平和友好連絡会議 (JVPF)  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 316 菊地ハイツ 101  
TEL.03-3268-4387 FAX.03-3268-6079  
本会報は事業主催 (JVPF) の植林プロジェクト特集号です。

2023年ハザン植林技術者視察団概要報告

「農民に思いを寄せ、トウシキミ（スターアニス）が、たわわに実を付け、日本とベトナムの友好を願う」

視察期間—2023年7月9日～14日

杉村政彦（森林労連） / 元林野庁北海道森林管理局上川南部森林管理署 首席森林官  
現北海道占冠村役場農林課林業振興室長

渡辺万葉（林野労組） / 林野庁東北森林管理局秋田森林管理署 森林情報管理官

2023年5月24日（水）、6月19日（月）

視察団の鎌田篤則・日本ベトナム平和友好連絡会議副理事長（東京都）、杉村政彦（北海道）、渡辺万葉（秋田県）の3名をオンライン（ZOOM）でむすび、事前打合せ・意見交換を行う。

情報として、ベトナムでは1940年代以降、戦争による破壊や戦後復興のための資材調達による過剰伐採や農地転換により森林が著しく減少した。そのため、ベトナム政府は「10億本植林プロジェクト」を実施する。本プロジェクトはそこに合致した取り組みである。

派遣時の7月は、雨期でありカッパが必要。現地は傾斜地で、従って降雨時は、足元が滑ることから注意を要する。

現地からは、“運搬時に苗木の破損が懸念される”と報告を受けている。詳細を問うと、苗木の仮置き場から原付バイクの荷台に苗木を積み込み林道・作業道（未舗装）を走行するためと再回答されているとのこと。オンライン打合せの結論として、現地実態が不明なことから視察時、路網状況を確認し提案等を行うこととした。また、明瞭な地形図で植林箇所を図示するため、地形図の提供を求めることも確認した。

一方、組合員（OB）が参加することから、農林水産省林野庁の職員で組織する全国林野関連労働組合より関係資料が提供された。内容は「ベトナムの森林・林業の概要」「ベトナムの林業行政の動向」、JICA（国際協力機構）による政策や支援等の多岐にわたり、ベトナムの国土・森林の特徴や林産業の動向を知るうえで貴重な資料であった。

6月の第2回オンライン打合せにおいて、鎌田副理事長より現地報告で「プロジェクト予定地より爆発物（地雷）が発見された」との一報を知らされ、困惑する。予定どおり視察を行うこととしつつ、カウンターパートと連絡を密に情報の共有を図ることを確認する。

7月9日（日）

羽田空港国際線ターミナルに鎌田篤則副理事長、杉村政彦、渡辺万葉、通訳のツエツトさんが集合。空港内のラウンジに場所を移し最終打合せを行う。

ノイバイ国際空港に20時10分到着。入国手続き後に、ベトナム・ドンに両替しホテルに投宿した。

7月10日（月）



カウンターパート側出席者（右側奥より）  
・ハザン省林業局ディン・スアン・ルーン局長  
・ハザン省外務局マオ・クック・トアン副局長  
・ハザン省外務局ダン・ティ・クイン・ホア事業担当  
・ハザン市林業部グエン・マイン・ハ部長  
・ハザン省林業局マ・スアン・ヴァン副局長

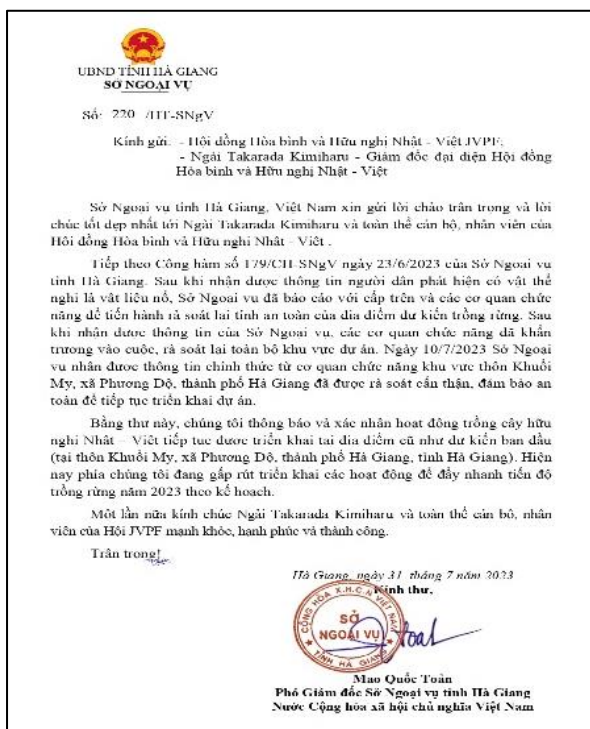


ベトナム側林業局の皆さんと日本側の杉村政彦さん、渡辺万葉さんの専門家たちで

7時30分、320km離れたハザン市に向けワゴン車にて出発。

15時15分からカウンターパートであるハザン省外務局と同省林業局、ハザン市林業担当を交え、プロジェクトの成功に向け会議を行う。

「5月、第1期植林予定地より爆発物(地雷)が発見された。やむを得ず代替地の検討と視察に入った。その後、軍(地元部隊)より5ha全域をチェックし安全性を担保した旨の連絡があった。プロジェクトに遅れは生じたが、事業地の変更は行わないことにした。」との経過報告がされた。視察団からは、以上のことを証明する正式文書の提出を求め、了解された。



ハザン省外務局から7月31日付で届いた正式書面

その後、外務局を中心に現況の報告がされた。

2023年1月に行ったプロジェクトの起工式記念植樹のトウシキミは200本植林され、3月現在の生育状況は枯れ等の育成不良苗が18本(活着率91%)であったが、6月現在、活着率82%に低下しているとの報告。

原因は、高温等による気象害・虫害と想定しており、水やりは植栽後1度きりのため、対策として灌水のためのポンプ等の整備の意向が明らかにされた。また、水田の上方に位置していることから除草剤・殺虫剤は使用しないことが述べられた。同時に、苗木購入時、厳選し優良苗木を植付けることに努めるとされた。

「プロジェクト実施にあたり課題となるのは」との問いに対し、「従事する農民の植付け技術の向上を図る必要がある」と林業局より発言がされた。

質疑の結果、苗木であるトウシキミの育成は、地元ハザン省で行われておらず、近隣のランソン省から購入・運搬をしていることが判明。なるほど「厳選した優良苗」

に言及する意味を理解した。

また、外務局より植林事業地へ通じる既設の作業道は路面整正が行き届いていないことから、整地・拡幅が農民のボランティアにより行われたことが報告された。日本側からは、助成対象として基盤整備のための作業道開設・整備を認めていること、作業道は補植、灌水、下刈などの保育作業のみならず、将来、結実したスターアニス(八角)の収穫・運搬でも利用することを念頭に入れて、路線の開設とメンテナンスが必要と説明をした。同時に、苗木の購入・運搬、現地における植付に至るまでの苗木管理(厳選と乾燥防止等)を申し入れた。(※事前のオンライン打合せで報告された現地からの懸念を払拭する意見交換となった。)

### 7月11日(火)

8時30分、ハザン市内のホテルを出発し、外務局・林業局と共に事業地であるフオンドー社(クオイン村)へ向かう。現地では地元農民も合流する。「クオイン村は薬草植物の栽培と観光村をめざす」と自治体入口の門に明記されていた。(下記写真)



爆発物発見によるプロジェクトの遅れのため、今年1月実施の記念植樹地の現況を確認しつつ意見交換を行った。

植付を行った200本の内、ランダムに10本を選抜し、現在(7/11時点)の苗長と生長量(伸長)を測定した。一見して生育は良好との印象を受けた。苗長の計測結果も、このことを裏付けるものとなった。(別表添付参照)

○以下、現地での観察事項メモ

<植付状況について>

・枯損した苗木の上端が、刃物でスパッと切られたように鋭い。

→林業局職員によれば、下刈りの際に誤って植栽木まで刈ってしまったもの(人為的なミス)だとのこと。

→植栽木を見落とさないよう、ペンキ杭等の工夫が必要。

・植栽箇所と思われるが、枯損含めて植栽木の形跡がない箇所が1箇所あった。

植付箇所現地調査（2023年7月11日）  
樹高（苗長）の計測結果（単位：cm）

No.	7/11現在	植付時	生長量
1	35	27	8
2	54	22	32
3	41	27	14
4	76	41	35
5	63	21	42
6	54	32	22
7	39	22	17
8	53	34	19
9	38	31	7
10	30	18	12
平均	48.3	27.5	20.8

※植付時苗長は、幹の色の変化点で判断。  
※測定苗木は現地でランダムに選択。  
※植付総本数200本。

- おそらく、植え忘れとのこと。
- 植栽列と苗木本数の管理など、ミスを防ぐ工夫が必要。
- ・植栽木の根元付近が少し凹んでいる。根腐れの心配はないのか？
- 林業局職員によれば、水はけ良好で、水がたまる心配はないとのこと。植穴を深く掘りすぎない注意もしているとのこと。



サンプルを検分作業



<周辺環境（林相）について>

- ・記念植樹地の周囲（周辺）は、約4割程、竹が侵入した広葉樹林で、マツ類も点在している。下層植生は主にシダ類。
- 貧栄養な土壌と推測する。保育作業の一環として施肥を行うのはそのためだろう（日本では施肥はぼ行わない。）
- なお、植付箇所



とその周囲は、今回のプロジェクト以前には人為を加えていない原生林（天然林）とのこと。（上記の推定を裏付ける。）

- ・ハザン市中心部からの標高差は500～600mほど。かなり傾斜がある。

→とくに急傾斜な区域（道下部分）は、段々畑状に整地して植付するとのこと（手間のかけ方は、果樹園に近いイメージなのか？）。

外務局の提供資料（写真）では雑草の繁茂が“半端ない”ことから下刈作業の困難性や1回切りではない複数回実施の必要性も感じた。そのあたりを作業に従事していた女性に伺おうとしたが、通訳が少数民族の言葉を解せず断念した。

同行してくれた農民によると、トウシキミは5年～8年で収穫可能となる。樹高15m程度まで生長し、9年間程度は安定的に八角・スターアニスと呼ばれる果実を実らせる。果実は中国に輸出され、中華料理の代表的香辛料の原料となるため取引されるとのこと。また、生薬として胃腸薬等の原料としても重宝するのだと説明を受けた。

今後の植林予定地は急斜面であった。写真のとおり、山岳地形の谷あいと比較的緩やかな斜面はすでに水田耕作地として活用済みであることから、残された植林地は厳しい条件に置かれることは理解できる。予定地はすでに上木が伐採され地拵えを行うまでに整えられていたが、現地農民の難儀を想像するに、このプロジェクトの成功と微力ながらお力添えが出来ればとの思いを強くした。

7月12日（水）

9時30分より外務局と前日の所見と今後の進め方について協議。

- ・急傾斜地であることから階段造林となることについて、畝のつくり方、水平段切りを確かなものにしなが

作業が必要と所見を述べる。

下草刈りに際し雑草の繁茂がおびただしい事から、使用する刃物の取り扱いを適正に行い、苗木への損傷・ヒューマンエラーを防止すること。そのため苗木に明瞭な目印を付けるなどの工夫を提案する。

外務局より、2023年の第Ⅰ期の今後のスケジュールは7月～8月に地拵えを行い、9月に苗木を植付ける。10月～11月にかけて補植および野生鳥獣害防護柵などを実施する予定。

第Ⅱ期目以降、ベトナム北部地方は米の二期作を行っていることから、二期目の田植えが終了した8月頃から稲刈り前の10月を適期としてプロジェクトに地元農民を参加させることが提案され、了承した。



繁茂が激しい事業地の下草刈り作業



事業地には防護柵も設置

### 7月13日(木)

11時より、ベトナム日本友好協会(VJFA: vietnam-japan friendship association)のグエン・フー・ビン会長夫妻(元駐日ベトナム大使)と懇談(意見交換)を行う。

(※今回のカウンターパートであるハザン省外務局は、ベトナム日本友好協会の「地方友好委員会」を兼ねている。)

懇談では冒頭、2023年1月実施のプロジェクト開工式と記念植樹ボランティアの報告書(日本ベトナム平和友好連絡会議会報別冊第1号)を手交した。開工式では少数民族の住民や林業局の青年団、ボランティア学生など100名を超える規模で行われたことを報告した。その後、日本の総理大臣として初めてベトナム社会主義共和国を訪問した村山富市元首相の近況や戦後50年の節目に発表された村山談話の歴史的意義等が話題に上り穏やかな内に懇談を終えた。

### 7月14日(金)

早朝、ホテルを出発。ノイバイ国際空港発8時05分のベトナム航空で帰国の途に就き、全員無事帰国。

最後に、各種の事前手配と視察に同行いただいたNPO法人日本ベトナム平和友好連絡会議副理事長鎌田篤則さん(IFCC国際友好文化センター理事長)、通訳・現地案内を務めていただいたチャン・チ・ツエットさん、ホアン・チ・ゴックさんに紙上をお借りして心からの御礼を申し上げます。



8月に入り整地作業、苗木準備が進められ、植栽が本格化した。

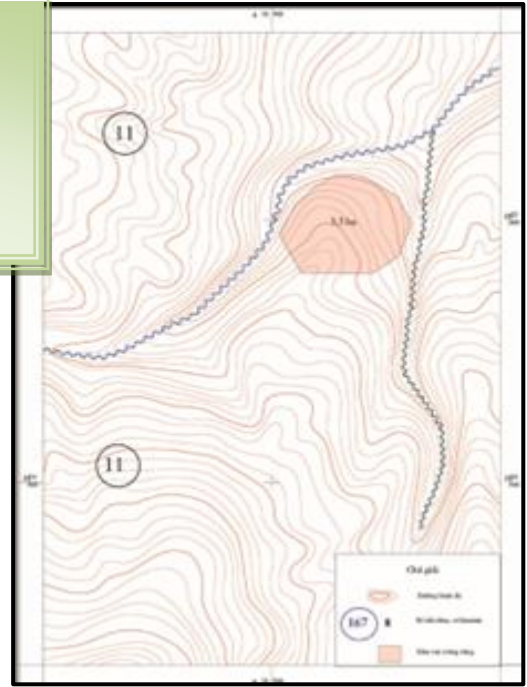


ハザン省フオンドー社

## 第二期事業助成認定で開始へ

～事業地面積縮小、樹種をシナモンに変更～

ハザン省日越友好植林事業(第二期)は当初予定が幾つか変更され、認定されました。①爆発物残存の問題があったこと、予定地の傾斜が植栽作業に適さないこと、から事業地面積が予定の面積 6ha が 3.5ha に変更 ②リスク分散したいとの地元民の希望で、樹種がスターアニスからシナモンに変更され認可されました。



上、事業地の計画図 下、事業規模内容



事業地の遠景、近景 (2023/8/25)



### 【事業の目的】より

ハザンの植林プロジェクトは、ハザン当局と住民がベトナム政府の提唱した「10 億本植林プロジェクト」を効果的に実施し、荒れ地と裸の丘を緑化し、環境と生態系を改善および保護し、植林と森林保護に対する人々の意識と責任を高めるのに役立っており、そして地域の

区分	ハザン省日越友好植林事業二期 目1年目		摘要
	事業経費(千)	内容	
植林	1,738	10,500本(3.5ha)	フジツバノ木購入、柱石
下刈・保育	117	畦・証・記録等	
機材調達	854	作業機材、肥料等	
基金整備	649	灌漑、防火施設	
啓発活動	192	看板他	
事務経費	571	通信・印刷等	
在学者旅費	759	旅費旅費等	
その他	192	ボランティア旅費	
助成合計		5,072	

2年目	443	畦・証・記録・EAP等	
3年目	405	畦・証・記録・EAP等	

アグロフォレストリー経済の発展を促進することに繋がっている。

森林は、大気の高め、嵐による被害を軽減し、洪水の流れを防ぎ、土壌浸食を防ぎ、地下水の貯留量を増やし、一度植林すると植林地の周囲の生物学的生態系を回復するのに役立つ。森林の被覆と品質を改善しながら、地域社会に収入と経済成長をもたらすために、栽培する樹種の選択は非常に重要である。

植林後の森林は地元の人々に割り当てられ、地元の人々が保護と手入れを行うため、森林の被覆を行いながら、地域社会に収入と経済成長をもたらす植林を行うことが非常に重要である。そこで、森林の機能を発揮しながら地元の人々が恩恵を受けることができる樹種を選定し、植林を実施することとする。

また、日本のボランティア、ベトナム側の地域住民が参加する植林プロジェクトは、日本とベトナムの友好関係をより緊密にすることになる。